

お客様の事業に、社会の進歩に、貢献する 三菱造船(株)

Mitsubishi Shipbuilding Co., Ltd.
Advancing the Customer's Business and Social Progress



三菱造船株式会社
企画管理部 業務グループ
☎(045)200-6611

2018年1月1日、三菱重工業(株)(以下、三菱重工業)の商船事業は、三菱造船(株)(以下、三菱造船)として、新たにスタートしました。造船事業の起源は1884年までさかのぼり、郵便汽船三菱会社 長崎造船所として出発しました。この130年を超える造船の歴史の中で、激しい環境の変化に対応しながら、様々な船を造り続けてきました。

三菱造船は、今後も経営の革新と技術開発に努め、お客様の事業に、社会の進歩に貢献し続ける会社でありたいと思っています。

1. 商船事業の構造改革の経緯

三菱重工業の船舶海洋部門の改革は以前から進めており、まず2015年10月1日長崎地区の船舶海洋部門を分社化し、得意船種のガス運搬船(LNG船・LPG船)の建造に集中し、連続建造による生産性の向上を図る三菱重工船舶海洋(株)と長崎香焼工場の強みである大型船体ブロックの生産に特化した生産合理化等を進める三菱重工船体(株)の2社を設立しました。

さらに2018年1月1日付で、モータルシフト・環境規制対応など時代ニーズに応えるべく、先に分社化した長崎地区の2社と三菱重工業本社地区及び下関地区の船舶海洋事業部を再編し、三菱造船と三菱重工海洋鉄構(株)(以下、海洋鉄構)を設立し、新たな事業推進体制としました。三菱造船では、エンジニアリングリソースを集約することにより、艀装主体の建造、アライアンス先との協業、設計供与、エンジニアリング事業の拡大等に取り組んでおり、一方の海洋鉄構では、大型船建造や、船体ブロックに加え、環境規制対応の機関・推進機など重要な機能ユニットの製造や大型鉄鋼構造物等の製造を主体としています。

この2社により、将来的には2000億円規模の売上を目指します。

2. 三菱造船の成長戦略

2.1 高密度艀装船の建造効率向上、規模拡大

エンジニアリングリソースを集約し、下関の艀装技術力と長崎の船体技術力を融合することにより、得意とする高密度艀装船の建造効率の向上、規模拡大を推進します(図1)。

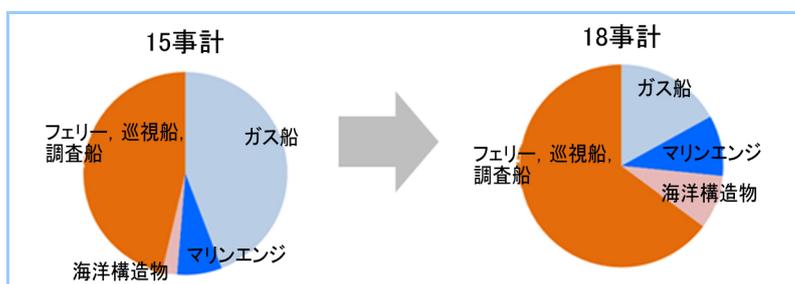


図1 受注船種構成

2.2 エンジニアリングを中心とした事業の拡大

環境規制強化への対応として、燃費の良い船型の開発, LNG, LPG 等クリーンな燃料の推進プラント設計, SO_xスクラバの展開に注力していきます(図2)。

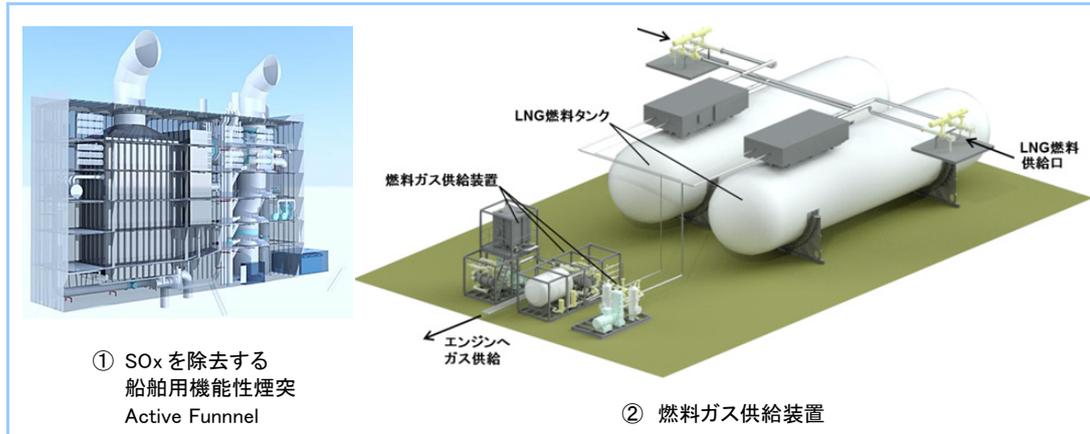


図2 エンジニアリング製品

3. 製品ラインナップ(商船)

3.1 フェリー・貨客船

高速で経済性が高いだけでなく、環境にも配慮したエコシップです(図3, 図4)。低騒音, 低振動を実現した船内は、快適でゆったとした船旅を楽しむことができます。



図3 フェリー らべんだあ



図4 フェリー いしかり

3.2 LNG 船・LPG 船

船型開発や構造解析をはじめとした当社の最新技術を結集した、軽量・コンパクトかつ高性能なガス船です。建造は海洋鉄構で行います(図5, 図6)。



図5 LNG 船 サヤリンゴ
DIAMOND GAS ORCHID



図6 LPG 船 ASTOMOS EARTH

3.3 RORO 船, 自動車運搬船,

輸送能力の向上だけでなく、経済性、環境負荷の低減、安全性を高める復原力回復装置等を搭載するなど、付加価値の高い船を建造しています(図7)。



図7 RORO 船 ふじき

3.4 特殊船, 巡視船

1922年にわが国初の調査船“白鳳丸”を建造して以来、海洋調査船、ケーブル敷設船、潜水機種などハイテクノロジーを駆使した特殊船(図8, 図9)を世界の海に送り出して来ました。また、海上保安庁向けの巡視船(図10)や、漁業取締船等も、多数建造しています。



図8 海底広域研究船 かいめい



図9 海洋資源調査船 白嶺



図10 1000トン型巡視船 ざんば

4. エンジニアリング事業

4.1 造船エンジニアリング

最先端の船型開発力や高度解析技術等の設計力を活かし、お客様である他社造船所のニーズに応えエンジニアリングサービスを提供しています(図11)。

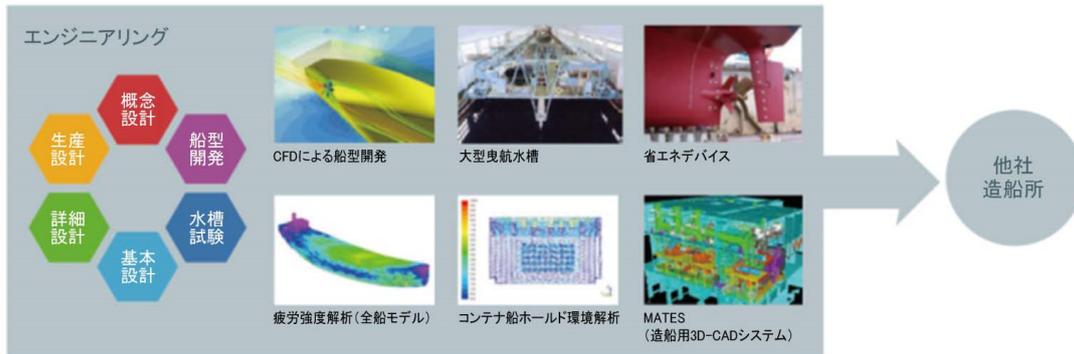


図11 造船エンジニアリング事業説明図

4.2 マリンソリューションプロバイダー

開発した省エネ・環境対策製品をパッケージ化して提供しています(図12)。

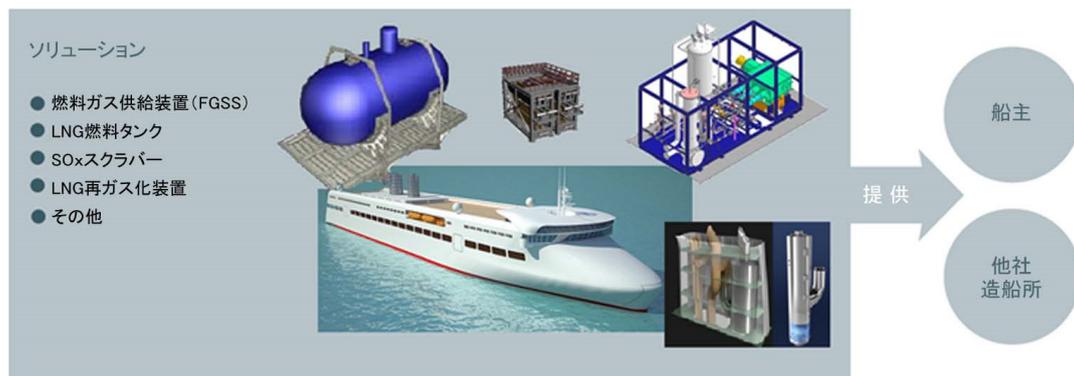


図12 マリンソリューションプロバイダー

5. 今後の展開

三菱造船は常にお客様の新しいニーズをとらえ、安全で環境にやさしい船、快適な乗り心地の船を造るために日々の努力を続けていきます。

また、IoT・AI技術を活用した“デジタルイゼーション”を積極的に推進し、自律航行船などの新たな時代の製品や技術を一日でも早くお客様に提供するするとともに、自らの生産技術についても革新的で先進的なものに変革するチャレンジを続け、世界の造船業でプレゼンスを発揮できる会社を目指します。